

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であった。

A 発音変化に関する問題である。問1は鼻音で発音しないものを選ぶ問題であり、問2は濃音化しないものを選ぶ問題である。問1は複パッチムのうち、どちらを読むのかが焦点になっているが、ネイティブ水準の語学能力を有している上位層の受験者であっても誤答を選択する傾向にあった。問2は識別力が高く、下位層の受験者においては濃音化する名詞に対する知識が乏しかった可能性のあることがうかがえる。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しい理解をしているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語などどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。概して正答率は高かったが、問3の正解となる副詞「역시」の用法がやや難易度が高かったと見られる誤答が中位層・下位層の受験者に一定数見られる。

C 語句の整序問題である。この問題は新傾向の問題として、昨年度に引き続き出題されたタイプのものである。韓国語は日本語と語順がほぼ同じであるため、韓国語文が日本語の直訳とならないようにし、韓国語としても自然な表現を問うことに重きを置いた。また、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。概して識別力が高く、問1と問2は下位層・中位層の受験者には比較的難しかったようであった。

第2問 日常生活でよく使われる表現を素材にして、文脈に沿うように語尾を選択させる問題、文脈に沿って対話を完成させる問題、対話の内容を理解し状況を把握する問題、会話の内容から地図上の場所を求める問題等を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくないので、状況を正しく把握する能力が要求される。

A 韓国語を学んでいる人が韓国人の知り合いに相談をする会話について、全体の流れや内容を理解しているかを問う問題が中心である。問1と問3は他に比べて正答を導くのが比較的容易い問題であった。

問1 空欄補充問題で、文脈からこの会話以前にやり取りされたメールの内容に合うものを

選択するものである。会話の内容をしっかりと把握できていれば正答を導き出せる問題である。

問2 空欄補充問題で、過去に最も多く出題された形式であり、受験者にはなじみのあるものであった。前後の文脈が把握できれば正答を導き出せる問題である。

問3 会話の内容から地図上の正しい場所を求める問題である。会話の内容に沿って地図上を進んで行くことができれば正しい場所にたどり着ける。難易度はそれほど高くない問題と言える。

問4 空欄補充問題で、過去に最も多く出題された形式であり、受験者にはなじみのあるものであった。ここでは文脈に合う副詞を選択するものであった。どの選択肢も日本語では「早く」「急いで」等の類似した表現であるためか、他の問題に比べ正答率が低かった。

問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。会話文を正確に読めていれば正解を導くことができる問題である。

B 学生3人が授業で発表する内容について話し合っている会話である。話の流れや発話の意図・内容を理解しているかを問う問題が中心である。正答率もおおむね高く、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。

問1 共通して入る語尾を選ぶ空欄補充問題で、会話文を正確に読めていれば正答を導き出せる問題である。

問2 空欄補充問題で、X・Y・Z・Mの各世代について文脈から読み取れていれば正答を導き出せる問題である。

問3 空欄補充問題で、文脈を理解していれば正答を導き出せる問題であった。

問4 発話の意図を読み取り、その意図にそぐわない選択肢を選ぶ問題であった。本文の意図を読み取れば正答に到達できる問題であった。

問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。会話文を正確に読めていれば正解を導くことができる問題である。

第3問 表やグラフ、公共案内文、モバイル機器の画面など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容の理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が問題を解く上で肝要である。問題作成に際して検討を重ねてきたが、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。

A 韓国における男女の経済活動参加率の推移を示したグラフを見て、その内容を正確に把握した上で、韓国語で書かれた選択肢から適当なものを選ぶ問題である。選択肢は6つあるが、情報を整理しつつ文の構造に注意すれば取り組みやすい問題である。正答率は高めではあるが、これは出題意図に合う結果であった。

B ゴミ収集の案内文に関する問題である。案内文の内容を正確に把握し、その中の細部情報を取捨選択して収集する力が要求される問題である。

問1 案内文の内容から読み取れる行動を類推する問題である。ゴミの種類によってそれぞれ行動が異なる事が読み取れば正答にたどり着くことができる。これもやや高めの正答率であったが、出題意図に合う結果であった。

問2 案内文の内容に基づいて会話を完成させる空欄補充問題である。ゴミの種類と収集日を見分けて選択肢を読み進めていけば正答できる。

問3 本文の内容と一致する説明を選ぶ問題である。選択肢の中には部分的に正しい記述と誤りが混じっているものもあるため、一部だけを読んで正答に至るというのではなく、本文全体の流れを掴み細部を含めた読解が必要であるという点で注意を要する。正答率は

やや高かった。

C 図書館の利用案内のウェブサイトを経験した問題である。

問1 本文の内容と一致する説明を選ぶ問題である。本文の内容と選択肢を照らし合わせながら、細部にも注意して読解すれば正答を導くことができる。正答率はやや低い結果であった。

問2 ウェブサイトの内容とカレンダーを照らし合わせ、一致する日を選ぶ問題である。選択肢の文と照らし合わせつつ、本文を辿れば容易に正答を導くことができる。

問3 案内文の内容に基づいたやり取りから状況を読み取る問題である。本文の内容から会話の流れに合った状況を類推すれば正答に到達できる。やや難易度の高い問題であったため、正答率は5割を下回り、低い結果であった。

第4問 人間の遺伝子情報を取り巻く問題と、その展望について書かれた評論を読み、その内容に対する理解度を問う問題である。本文の全体的な内容を踏まえ、漢字問題、空欄補充、下線部が示す具体例の選択、内容を要約した小タイトルの選択、内容一致の問題など、様々な形式の問題に答える必要がある。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。正答率にばらつきがあり、「創造」の「創」から「創刊号」を選択する問題の正答率が最も低かった。一方で、「費用」の「費」を問う問題の正答率は、第4問の中で最も高かった。

問2 本文の内容を踏まえ、下線部の指示対象が他の3つと異なるものを選択する問題である。第4問の中では、中間程度の難易度であった。

問3 本文の内容に沿って下線部の内容を選択する問題である。正答率はかなり高い問題であり、難易度もやや低めであった。

問4 前後の文脈を理解し、適切な語句を入れる問題である。正答率はやや低い問題であった。

問5 下線部の事例として当てはまらないものを選択する問題である。難易度はさほど高くない問題であった。

問6 本文の内容に基づき、3つの空欄に共通して入れる単語を選択する問題である。正答率は比較的高い問題であった。

問7 提示された文章を、本文の適当な箇所に入れる問題である。難易度は中間程度であった。

問8 本文の内容を読み、段落ごとに適当な小タイトルを選択する問題である。本文の論理的構造に対する理解を問う問題だが、正答率はかなり高かった。

問9 下線部が表すものについて、日本語で書かれた適当なものを選択する問題である。本文の内容を日本語の「摂理」と結び付ける問題だが、正答率は第4問のうち最も低かった。韓国語の読解力と同時に、日本語の語彙力が問われるなど、難易度が高い問題であった。

問10 本文全体の内容と一致するものを選択する問題であり、本文の内容を正確に理解することが求められる。②と⑥の2つを選択する必要があるが、問9とならび正答率はかなり低かった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の問題も昨年度と同様、実生活の中で接する文章を読んで問題解決を図る問題や、長文の中に漢字問題や文法問題を組み込むなどのこれまでの試みを定着させると同時に、並べ替え問題を出題するなど、実践的なコミュニケーション能力を重視した問題の作成を行った。

第1問に関しては発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判が依然としてあった。しかしながら、本部会では、コミュニケーション能力を問う前提として正確な発音・語彙・文法の

知識を問うことは学習者にとって必要なことであり、中等教育と大学教育を繋げる共通テストの意義という観点からも妥当であるという見解を維持している。よって、今後も発音や文法問題はなるべく文章の中に組み込む努力は続けるものの、第1問のような形式の問題は存続させる方向である。

実用文の出題について、方式についてはいまだ試行錯誤中だが、問題の質自体は昨年度よりも更に向上した。問題中の情報量が多い点については、今後も問題の量を調整する努力を続けていく予定である。

長文問題は、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。漢字語や専門用語が多めで難易度がやや高いと評価されたが、長文の分量、問題数など、全体としては適当であったと判断される。

昨年度に続き、今回の問題も高等学校入学以降の学習者にも十分解ける問題であると思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

4 ま と め

「共通テスト」開始に当たって実用問題を取り入れるなど新たな取組がなされて今年度で4回目となるが、まだ課題は残る。実用問題における題材や形式については、新しい試みであるだけに様々な可能性がある一方で、大学入試問題として許容される実用文の範囲をどう定めるかという問題について、今後も検討を要する。長文問題は「共通テスト」になって以降、主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるよう検討していく必要がある。

全体の分量には常に留意する必要がある。使用語彙や文法項目、難易度等については、今後も現在の水準を維持していく。